


統計リテラシー No.5

バイアスと交絡を読む

—— 研究結果を「疑う目」で見る

 **今日のゴール：**「この研究の結論は正しいのか？」を問い返せるようになる。バイアス（系統誤差）と交絡の意味・種類・対処法を理解し、論文の限界（Limitations）欄を批判的に読む目を養う。


 この授業の問い

1. 「コーヒーを飲む人は心臓病になりにくい」という研究結果は、そのまま信じてよいか？
2. バイアスと交絡の違いは何か？どちらが「修正可能」か？
3. RCT（ランダム化比較試験）が「交絡の最強の対処法」と言われるのはなぜか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 前回（No.4）との接続

前は「RR・OR・NNT で効果の大きさを測る」ことを学んだ。しかし計算できた数字が「正しく測定できている」かどうかは別問題だ。

 **今日の問いかけ：**「喫煙者は肺がんのリスクが高い（RR = 10）」という研究があったとして、このRR = 10 は本当に喫煙だけの影響か？他の原因が混じり込んでいないか？

この「混じり込み」を整理するのが今日のテーマ：バイアスと交絡。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— バイアス・交絡の問題で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

バイアス・交絡の問題では、交絡因子の定義と影響の根拠の理解が答案の質を大きく左右します。

② バイアス・交絡の問題で採点者が見ているポイント

「交絡因子が暴露と転帰の両方に関連するから」と条件を示した答案が採点者に明快と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所